

P-19 子宮平滑筋腫瘍において良性・悪性の鑑別と予後の評価にKi-67(MIB 1), PCNA, および p-53は有用であるか.

秋田大

小松正代, 福田淳, 村田昌功, 高橋道, 児玉英也, 太田博孝, 田中俊誠

[目的] Mitotic Index (MI) が低値であるにもかかわらず, 悪性転帰をとげる子宮平滑筋腫瘍 (Uterine smooth muscle neoplasm, USMN) が報告されている. 今回, MIの他にKi-67 (MIB 1), PCNA, p53 の免疫組織化学的検討がUSMNの良性・悪性の鑑別と予後の評価に有用であるか否かを検討した.

[方法] 術後の病理診断でleiomyosarcomaと診断された4症例, leiomyomaと診断されたが悪性の転帰をとった1症例, benign metastasizing leiomyoma (BML) 1症例, leiomyoma 6症例, の計12症例を対象とした. パラフィン切片で抗Ki-67 (MIB 1) 抗体, 抗PCNA抗体, 抗p53 抗体を用いて microwave antigen target retrievalを行い, avidin-biotin 法により免疫組織染色を施行した. 標本上 x400 の1視野において陽性核の出現頻度をIndex (%)とした.

[成績] 1) leiomyosarcoma 4症例と悪性転帰をとったleiomyoma の1症例のすべてにおいて, MIB 1 Index は陽性 ($5.5 \pm 0.9\%$)であった. しかし, BMLとleiomyomaの全例においては, MIB 1 Index は1%以下と, 陰性であった. 2) PCNA Index は12例中10例 (83%) が1%以上と, 陽性であった. 3) p53 Index はleiomyosarcoma 4例のうち1例のみが陽性であった.

[結論] 従来, USMNの組織学的良性・悪性の鑑別は, 1) 壊死の有無, 2) 腫瘍細胞の異型度, 3) Mitotic Index, 4) 辺縁の明瞭さ, 5) 脈管侵襲の有無, でなされてきたが, Mitotic index が低値である症例においては, MIB 1 Index が良性・悪性の鑑別と予後の評価に有用であることが示された.

P-20 小さな子宮体癌 (最大径10mm以下) 57例の臨床病理学的研究

癌研病院

荷見勝彦, 杉山裕子, 平井康夫

[目的] 子宮体癌の早期発見と手術縮小の可能性を検討するため, 最大径10mm以下の体癌 - "小さな体癌" - 57例の臨床病理学的解析を行った. [方法] 1986~1992年に手術がなされた体癌367症例中, 最大径10mm以下の57例を研究対象とした. [成績] 1. 平均年齢は53.7才で, 45~54才に多い. 未妊婦は5名 (8.8%), 未産婦は8名 (14.0%)であった. 肥満は8名 (14.0%), 耐糖能異常は13名 (22.8%)にみられた. 2. 症状: 6ヶ月以内に異常出血があったものは45名 (78.9%), なかったものは12名 (21.1%)であった. 3. 内膜細胞診: 初回細胞診の報告では, 陽性+疑陽性が30例 (52.6%), 陰性が27例 (47.4%)であった. 4. ルーペ像: 乳頭型が16例 (28.1%), 平坦型が41例 (71.9%)と大部分を占め, 潰瘍型はなかった. 5. 癌の発生部位: 子宮内腔の上1/3が47例 (82.5%)と大部分を占め, 中1/3が8例 (14.0%), 下1/3が2例 (3.5%)であった. 6. 筋層浸潤: 腫瘍径5mm以下で38例中0, 5.1~10mmで19例中12例と高率に認められた. 7. 転移: 骨盤リンパ節転移は, 50例中1例 (2.0%)であった. 付属器転移はなかった. 8. 予後: 漿液性腺癌の2例が再発により6年以内に死亡しているが, 他の55例は再発なく5年以上生存している. [結論] 以上より50才以上のもの, 出血のあるもののみに検診をしていては, "小さな体癌" を見過ごすことになる. 内膜細胞診の偽陰性率が高いので, 検出率を高める必要がある. 発生部位より考え, 生検は子宮底部・卵管角を含めた上1/3を念入りに行う必要がある. 今回50例中1例にリンパ節転移がみられた. リンパ節廓清を省略しうるか否かは, 多数例による検討が必要で, 今後の課題である.